

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区蒲田本町1丁目1-1-101
園名	蒲田本町保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

素材で遊ぶ

<テーマの設定理由>

園の特色として、夏には感触遊びを園全体で楽しんでいることもあり、様々な素材に触れ、五感が刺激されることで遊びを工夫したり探求したりと豊かな体験を積めるようにするため。

### 2. 活動スケジュール（4歳児クラス）

活動内容	時間/回	人数/回
① 絵具で遊ぶ『色の実験』	50分程度	自由
② 土粘土で遊ぶ	50分程度	自由
③ シェービングフォームで遊ぶ	50分程度	自由
④ 黒土で遊ぶ	50分程度	自由

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動①絵具（赤・青・黄・白）、筆、画用紙、プラカップ等の廃材

廃材のカップに自分たちで好きなように色を混ぜ、出来上がった色を画用紙に塗って試することができる設定にした。

活動②美濃白土、すり鉢、ふるい、木槌、プラカップ等の廃材

様々な道具を用意したことで、一人一人の探求したい事に没頭できていた。また全身で感触を楽しめるよう裸足になれるようにした。

活動③シェービングフォーム、絵具、石鹸、画用紙

最初はシェービングフォームに絵具を混ぜ、画用紙に吸い取らせ色の移りを体験できるようにした。その後、石鹸を用意し二つの泡の違い、混ぜたらどうなるかなどこども達の興味が広がるようにした。

活動④黒土、スコップ、カップ等

最初は固い黒土から水を混ぜていき、扱いやすい固さをこども達で感じ取れるようにした。また裸足で遊び全身で感触を楽しんだ。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

活動①赤・青・黄・白の絵具を用意し、自由に色の変化を観察した。また出来上がった色を画用紙に塗って試せるようなスペースも用意した。

活動②土粘土に自由に触れて遊ぶ。また乾いている土粘土も用意し、すり鉢で削ったりふるいにかけてりと遊ぶ姿がみられた。また全身で感触も楽しめるように裸足で活動を行った。

活動③シェービングフォームに絵具を混ぜて遊ぶ。後半は石鹸も用意するとこれまでの素材を混ぜ合わせたらどうなるかと実験する姿が見られた。

活動④園庭に黒土遊びのコーナーを設定し、園庭遊びの際に自由に触れて遊んだ。砂場の横に設定していたこともあり、砂との感触の違いを楽しんでいた。

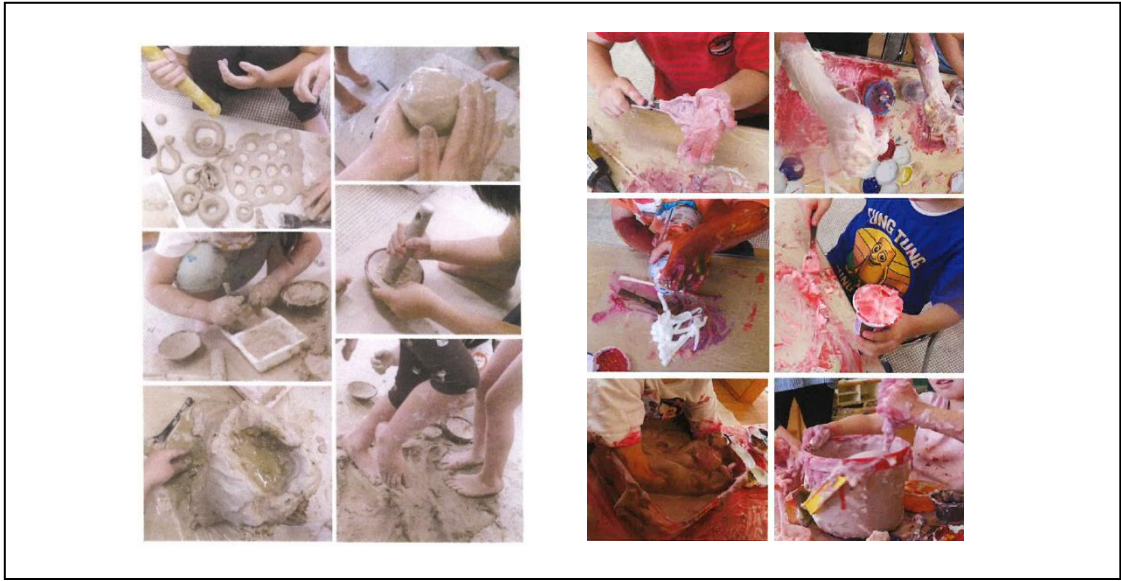
##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動①絵具を小さなカップに混ぜて好きな色を作る提案をした。こども達はピンク、紫など知っている色を作っていく、画用紙や手のひらに塗って遊んでいた。すぐに遊びを切り上げる子、集中して遊び続ける子と分かれ、集中して遊ぶ子は自分の世界に没頭するかのように少しずつ絵具を混ぜて微妙に色を変化させ、画用紙に塗っていくという事を繰り返していた。

活動②土粘土の塊を見せ、「この粘土は土できていて、乾かして焼くとお皿やお茶碗になるんだよ」と簡単に説明した。こども達は戸惑うことなく土粘土に触れ、切る、まるめる、ちぎる、伸ばすと楽しんでいた。数人で協力をし、大きな山を作る姿も見られた。またすり鉢を用意すると、すぐに使い方を覚え、役割を分担して遊ぶ姿が見られた。

活動③シェービングフォームに絵の具を混ぜ、紙に刷り取ることから始め、その後は泡を混ぜる事に夢中になっていた。「〇〇色を作った」「濃い赤にした」とこども達も意図しながら色を混ぜていた。後半は石鹸で自分達で泡を作ることに夢中になっていた。「これを混ぜたらどうなるかな」と全ての素材を混ぜて探求していた。

活動④最初は砂場の砂と違い、固くて真っ黒な土に興味を示し、触ってみるとなかなか崩れ無いので「石みたい」と話す子もいた。水を用意すると、こども達で混ぜ始め、次第に扱いやすくなっていく黒土の感触を楽しんだり泥団子づくりなどままごとをしたりと遊びに発展していった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

こども達が主体的に「どうなるのかな」という疑問に向かって探求する姿がみられ、自分で考え、判断するという力が育ってきていると感じた。また大人がこうしたらいいのではと声を掛けるのではなく、見守っている事で、自由な発想が生まれたと感じた。こども達が今感じている興味関心にまっすぐ取り組んでいる姿が本来のこどもの姿だと実感した。